

「富山県移住の歴史の象徴」



母県からの慶祝団を迎えた記念式典

第三エリアンサ入植90周年

母県から副知事ら慶祝団

聖州ミランドポリス市の第三エリアンサ移住地（富山村）は、入植90周年記念式典を15日に同会館で開催した。隣接する第一、第二移住地や当地の出身者ら500人以上が慶祝に駆けつけた。アリアンサ移住地は民間主導としてはブラジル初の大規模移住地だった。その第3移住地は、富山県海外移民協会と信濃海外協会により創設され、富山県人3家族11人の移住から始まった歴史を持っている。

当日は開拓先亡者を偲んでしめやかに追悼法要が行われた後、日僑国歌を唄った。式典は始まった。挨拶した第三エリアンサ日僑文化体育協会の嶋崎清会長は、「理想郷の建設に挑み、原始林を開拓した先駆者の苦勞を思えば感慨無量。果樹栽培や牧畜業も不況の爆りを受けているが、活路を見出し努力していきたい」と語った。母県からは、山崎康至副知事ら5人の慶祝団が出席。石井隆一県知事の挨拶文を代読した同副知事は、「ここは富山県移住の歴史の象徴。今日まで移住地を残してきたことに心から感謝したい」とした。上で、1978年以降、母県が日本語教師を派遣してきたことに触れて「新たな絆となり、互いの距離は縮まっている。共に手を携え発展していきたい」と語った。

ミランドポリス市のレジナ・セリア・ムスタファ・アラウジョ市長は「先駆者から規律、組織、公正等の美点を継ぎ、社会の発展に貢献してきた日本移民は、町の象徴だ」と称賛した。アフォンソ・カルロス・ズイン市議会議長、飯屋ワルテル連邦下議



富山県人会の市川利雄会長、ノロエステ連合会の安永信、会長ら同地の日系団体代表者らが参席し、祝辞が相次いだ。引き継ぎ功労者表彰と敬老表彰が行われ、富山県から金一孝と記念品が贈られた。富山県立高校生の徒によるダンス発表で会場を沸かせた。昼食会には富山県広報キャラクター「きときと君」が姿を現して場内を和ませる中、一行は婦人会の準備した料理に舌鼓を打ち、旧交を温めた。

聖市からバスで駆けつけた水島真由美さん（87、二世）は「かつて住んでいた場所を歩き、郷土を懐かしむ時、今更には懐かしむ。今回は未だ子も来ず、これで子供達も一と膝懷を満ちた。最盛期には200世帯を超えた第三移住地も現

いとしい故郷アリアンサ

母の愛を噛み締める大平さん

聖市から式典に駆けつけたアリアンサ郷友会一団。朝日が空を赤く染め、赤い大地が地平線上行を乗せたバスが同地に

に鳴咽して窓ガラスが曇ったのが、今でも鮮明に脳裏に焼きついていて「という。その後、勝ち負けを争って教師間でいざこざが起ったため、それを機に帰郷したとか。移民らしい歴史を感じさせる逸話だ。

水島真由美さんがアリアンサを離れたのは、在りてはおよそ40世帯。時代の波に翻弄されるなか、なんとお互いに協力し合い村を存続させてきた。次の10年を超えて百周年を迎えられるかどうか分らない、そんな不安もある。でも、自分分はアリアンサで生まれ育った。だからここで骨を埋めたい」と村を守る気概を見せた。



大平さんは「本当に母の手一つで育てられた。鮮明に記憶して84年に亡くなった。空を赤く染める」とか

の様々な思い出が蘇った。上野定、各上映。同イベントのFacebookページ（facebook.com/okabeji）も開いた。そして、23日まで、サンパウロ文化センター（Rua Vergueiro, 1000）で日本映画監督 是枝裕和氏の作品が上映されている。入場料は2レ。『誰も知らない』（2004年）や『海街diary』（2015年）などみては？